



## 明知の名の起こり

「其頃（応永年間〈1394～1428〉）劫外乗空和尚ト云ヘル禅僧アリ、此地ニ錫ヲ留メ宝珠庵ヲ開ク、乗空和尚ハ明朝（中国）ノ産ニシテ妙智高德ヲ以テ世ニ聞ユ、里人其名ヲ明智と称号ス、之ヨリ深谷ノ名変シテ明知ノ名起ル」と石川賢宗著「三好村大字明知変革史」に記されている。

**明知の地形と三つの切れ**…明知は山地から平野への中間の土地であり、上ノ切は山間で、下ノ切は平野になっている。明治から昭和20年ころまでは、明知村として一つの行政区であった。戦後明知上、明知下という二つの行政区に分れた。

- ・ 明治時代には、集落は上ノ切、中ノ切、下ノ切に分れていた。
- ・ 上ノ切、中ノ切には神社や寺が多かった。神社は三つになり、寺は廃寺になったものもある。
- ・ 下ノ切の南端には平針街道が通り、東端には足助につながる塩の道があった。

図 明治26年（1893）陸測地図「平針」・「知立」より合成



明治20年代の明知村付近

## ①明知八柱社

創立年代は不明。保存されている最古の棟札によれば、応永8年(1401)。

明治初年一村一社の令により、明知村の氏神となった。鳥居は両部造りで木造朱塗りである。戦前は猿投八王子社とよばれた。神社碑に八体の御祭神が記されている。



鳥居から拝殿を望む

秋季例大祭10月第四日曜日。

夏の天王祭りは7月第四日曜日の夜に行われ、提灯行列が美しく、参詣客で賑わう。



天王祭り

## ②山ノ神 (一統ごと)



上屋敷講のどんど焼き

山ノ神は春になると野に下って田の神となり、収穫を終えると帰られる。山ノ神を祀る山の講は、明知上の各一統毎にあり、それぞれの講ごとに神事が行われている。



中屋敷講の祈禱



禰宜屋敷講のふるまい

### ③光明寺

浄土宗。応永20年（1413）祐福寺二世玄通大和尚の隠居庵として発足した。23世真山伝翁は明治初期の明知村副戸長となり、村政や教育に貢献した。



光明寺本堂

### ④観正寺



観正寺本堂

曹洞宗。往古は観音寺と称し、明知村上ノ切宝珠場辺りにあったが、一時廃寺となった。その後堤村瑞応寺5世牛庵和尚が宝永2年（1705）現地に開山し、牛谷山観正寺と称した。

### ⑤法光寺

曹洞宗。明知上の棟梁深谷仁三郎が一人娘と孫を亡くし、その菩提を弔うため出家し、仁翁和尚となり、山中に庵を建て、弘法様を安置し、境内に八十八カ所霊場を開いたことから始まる。大正7年（1918）遠州豊岡より護国山法光庵の寺を移転し、法光寺となった。



弘法祭りの法光寺本堂

## ⑥戦争(戦役)の記念碑



日清戦役



日露戦役

明越村<sup>あけこしむら</sup>から出征した兵士や戦死者を記念するために建てられた。

元は、明知村持ちの寺薬林寺境内にあったが、薬林寺が廃寺になったため、八柱社境内に移転された。

日清…日本と清（中国）

日露…日本とロシア

## 昔の切りの名残を伝える神社

### ⑦白山神社

上ノ切の上屋敷講の人々の守り神である。加賀の白山神社から<sup>かんじょう</sup>勧請された。

現在でも旧暦8月1日に近い9月第一日曜日に世話人が祭礼神事を行い、夏やせの回復を願ひ餅を振舞っている。



森の中の白山神社



不動明王（左）と猿投神社（右）

### ⑧猿投神社

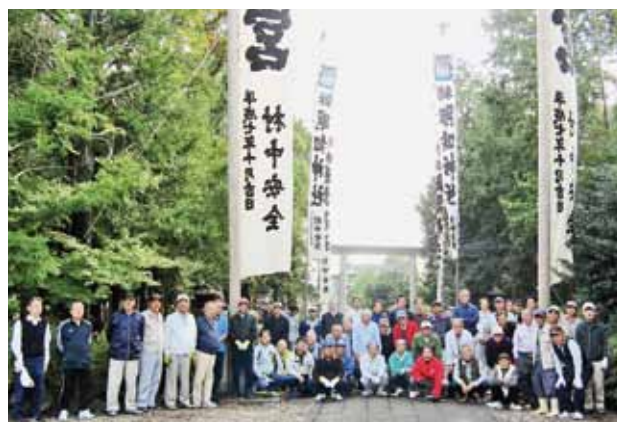
中ノ切の守り神である。猿投神社から勧請された。

平成5年（1993）の畑総事業により現在の所に遷座された。現在でも世話人（年行事役）が初秋（8月下旬）に祭礼神事を行う。

■ は寺社



## ① 明知神明宮



のぼり立てに集まる氏子

あまてらすおおひるめののみこと  
 天照大日靈尊を主祭神  
 ほんだわけのみこと かなやまひこ  
 のに、菅田別尊・金山彦  
 のなご  
 尊の三柱を奉斎する社で  
 ある。寛永12年（1635）  
 領主本多下総守俊次が武  
 運長久、郷中鎮護のため  
 創建、その後廃社、再興  
 を経て、戦前は村社、戦  
 後は十等級に位置づけら  
 れる。昭和48年（1973）  
 に本殿、拝殿、社務所等

を一新する大造営工事を実施し八等級に昇級する。

正面の大鳥居から臨む景観は、緑の木々の奥に神明造のお社とその前に石灯籠と狛犬こまいぬが点在し、鎮



神明宮に伝わる棟札(部分)



明知神明宮拝殿

守の森にふさわしい佇まいである。



ハス池畔の津島神社

## ②津島神社

毎年7月の天王祭では、暑い夏を無事に過ごそうと祈りを込めて、ハス池横の火の見櫓に富士山を形どった提灯が掲げられる。住民は笹竹に提灯を灯して持寄り、ハス池周辺を飾る。子どもたちは持寄った花火を楽しみ、祭囃子の奉納とともに、にぎやかに執り行われ、夏の夜の風物詩である。

## ③浄久寺

名称 東林山玉照院浄久寺

宗派 浄土宗西山禅林寺派

本尊 阿弥陀如来坐像

〈主な行事〉

報恩講

天正2年(1574)祐福寺第12世沢良教雲大和尚が当地において教化したところ、篤信の徒が多く参集し、つ

いに一字を建立して仏恩報謝せんじゆ専修念仏の道場となした。昭和50年(1975)に面目一新の大改修が成された。

昭和63年(1988) ふれあい観世音菩薩像建立・蓮華庵新築・地藏堂移設

平成6年(1994) 法然上人立教開宗像建立

平成7年(1995) 不動明王尊銅像建立



浄久寺本堂

#### ④松葉池と二つの街道

松葉池は矢作川水系の枝下用水－堤用水より導水され、木曾川水系の愛知用水からも導水され、同時に2水系の水が利用される特異な溜池である。ハス池と埋管により連絡され、両池の利水がより良くなった。



鏡のような松葉池

平針街道（姫街道）：江戸時代の始めに徳川家康の命により岡崎（宇頭）から名古屋への脇街道として開かれ、堤の御茶屋から松葉池の脇を抜け、明知下の集落を通り祐福寺に至る道。

塩付街道：松葉池の東、堤境の丘陵づたいに刈谷市泉田町から足助へ、塩の俵を馬の背に乗せて通った道。今後、道筋の解明が期待される。

#### ⑤西山墓地

西山墓地の敷地を含む一帯は、明治40年（1907）に宮内省所有から愛知県に移管された。大正14年（1925）からは明知下耕地整理組合による整地が始まり、昭和5年（1930）に三好村への県有林払い下げの手続きが行われた。その一部



を共同墓地として、区内に散在していた墓地が全て集約され、その後何度かの整備を経て、今の西山の景観を整えるに至った。南だれの緩斜面に立地する統一のとれた広い墓地は、明知下行政区で管理している。

## ⑥六部地蔵

六十六部の納経のために諸国巡礼していた行者が、明知に来て病にかかり正徳2年(1712)に死亡。それをあわれんだ村人が地蔵堂を建てたと伝えられる。お堂の前の木箱に石が積み上げられており、「イボ取り石」と呼



ばれている。この石を持ち帰り、イボをなでるとイボが治るといわれ、石を返す時にお礼として新しい石を納めるしきたりとなっている。

おのだまたぞう

## ⑦宮大工小野田又蔵記念碑



安政2年(1855)、明知村小野田菊蔵氏の二男として生まれる。

20歳前後には、棟梁石川貞助氏の下で、三好上だしの山車製作に携わる。

棟梁として26歳の時、明知神明社(現在の明知神明宮)拝殿を手がけ、49歳の時には本殿を建設している。

当時の三好村では、打越神明社、筋生神社拝殿を手がけ、愛知県内近隣市町村で活躍し、岐阜県や滋賀県にも進出している。生涯手掛けた社寺は60数件。昭和14年(1939)85歳で死去し、西山墓地に眠っている。

又蔵の業績をたたえ、明治42年(1909)、平針街道沿いに小野田又蔵氏しょうとくひ頌徳碑が建立された。



■ は寺社



## ①打越神明社

○創建 かんじょう 勧請は不詳だが、伝承によると正平9年(1354)南朝頃に八幡大菩薩、伊勢大明神、春日大明神を祀って社とした。

○神明社 明治4年(1871)太政官布告により神明社と改称。明治40年、村社に指定。後に昭和27年(1952)宗教法人「神明社」となる。拝殿は宮大工小野田又蔵が建立している。

○御祭神 あまてらすおほひのめのみこと ほんだわけのみこと 天照大日靈貴尊、譽田別命、  
あめのこやねのみこと 天兒屋根命

○祭礼 秋の御大祭ほか大小8回

\* 摂社  
・白山社(夫婦和合、仲裁の神)  
・打越神社(護国の霊を祀る)

\* 末社  
・秋葉神社  
・天王社  
・御鋏社



本殿



拝殿

## ②常夜灯

打越村の入り口、出口に建てられ、夜灯明を灯し村中安全を願った。



## ③三百目地蔵



三百目地蔵

その昔打越村の母親と息子が助けあい苦労しながら働いていた。ある日母親が急死した。息子は母への弔いとして、懸命に働き、また秋には田の落穂を拾い集めて、この地蔵を造るための金とした。数年後ようやく地蔵を造ってもらおうお金ができた。母への恩に報いることできた。



三百目観音

## ④三百目観音

三百目地蔵と並んで祀られている。打越村の火葬場付近一帯の山林が昭和50年代の南部畑地帯総合整備事業により南中学校の敷地として開発されたので、死者の霊を祀るために建立された。



## ⑤大日如来

打越下屋敷一帯を通称「大日-だいにち」と呼ぶが、昔からこの地に「大日如来」が安置されていることによるものと思われる。

過去には5月に祭祀されていたが、現在は8月15日に行われている。

### ⑥宝林寺



宝林寺本堂

- 創建 慶長4年(1599)
- 宗派 浄土宗西山禅林寺派
- 本尊 阿弥陀如来



(宝林寺入口前の) 子安観音

### ⑦大覚寺



大覚寺本堂



戦時中コンクリート製の釣鐘が掛けられていた鐘楼

- 創建 室町時代寛正<sup>かんしょう</sup>5年(1464)、蓮如上人の弟子の子が念仏道場を開く。
- 宗派 浄土真宗大谷派
- 本尊 阿弥陀如来

梵鐘は太平洋戦争中に金属製品献納として供出された。代わりにコンクリート製の鐘が吊り下げられていた。



コンクリート製の鐘

## ⑧御嶽神社

木曾の御嶽山への山岳信仰の神社である。御嶽講信徒により魔除け、災難逃れ等のために祀られている。



## ⑨馬頭観音



大正時代末期に豚コレラが流行して打越中の豚200頭を殺して馬捨て場に埋めた。昭和13年(1938)当時の畜産家により馬頭観音が建てられ、今でも供養している。

## ⑩打越村絵図

天保13年(1842)3月に描かれたもので、村全体の絵図である。当時はほぼ3つの藩に分けられた絵図で、図上の打越上は拳母藩の内藤家、打越中は吉田藩松平伊豆守、そして、打越下(大日)は西大平藩の領地の家として民の家が色分けされ、また藩の領地も右下の川沿いに色分けされている。青い色の部分は池や川である。水路は青、道は朱書きされている。



天保13年(1842)3月  
(個人蔵)